

放課後等デイサービス事業所における自己評価

公表：令和 6年 5月 15日

事業所名 放課後等デイサービス
サンティパープ 吹田教室

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標や工夫している点について
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	
	2	職員の配置数は適切である	8	1	・職員が多めに配置されるので、マンツーマン等の手厚い支援が可能になっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	0	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	1	・日々の朝礼や定期的実施している研修の機会を利用して確認している。 さらに多く議論を交わせる機会を作っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	・実施されている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1	・実施されている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	5	・外部評価を実施できる第三者機関との関係を築く必要がある。 ・そのような第三者機関があるのか、いまい不明。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	・一年間で2回、定例で実施している。 ・改善点として、外部の研修や講習をもっと受講できる機会を設けていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	・定期的に面談を実施して情報の収集や共有に努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3	・どれをアセスメントツールとして使用しているのか不明。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2	・職員全員の話し合いにて行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1	・職員間の話し合いで決定している。 ・利用者児童が、本人の意思で自由に活動できるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	1	・前もってプランの提案をして準備を行っている。 ・早めに決めておき、必要に応じて変更できるようにすることが改善点として挙げられる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3	・改善点として、打ち合わせの時間をより多く確保することがある。 ・その日の利用児童の直近の様子や注意する点、声かけの仕方等を共有する時間がより多く必要。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	・業務時間内での伝達、共有が難しい場合には、LINEのノート機能などを活用している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	3	・ガイドラインが全職員に周知きれていない部分がある。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	3	・サービス担当者会議があまり実施されていない。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	0	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	6	・現在医療的ケアを必要とする利用者が在籍しておらず、今後もサービス提供をする予定は無い。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3	・就学前に保護者や相談支援事業所を介して情報の収集と共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	5	・学校を卒業して障害福祉サービスへの移行をした例が無いのでわからない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4	・支援センターが主催している研修などに出席して関係を構築していく必要がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	9	・現状、なかなか接点が見つからない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	5	・情報がキャッチしきれっていないことがある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・送迎維持や面談の機会を利用して話をしている。 ・相談事や悩みの解決等にあって、電話やメール、直接来所していただいております等の手段を用いて対応している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	5	・どのようなことがペアレントトレーニングに該当するのかが今ひとつ不明である。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	・利用契約の締結時には必ず行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	・モニタリングのみならず、送迎時に伝えきれなかったことを送迎後やよくじつに電話やメールにて共有し、保護者の相談事については随時来所をしてもらうなどして対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	8	・現状では、父母の会や保護者会の活動を開催したり持ちかけたりするのは困難な状況にある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	・定期的に行われず少し間隔が空くことが多いので、定期的に刊行できるように業務の振り分けをしていく。 ・会報の定期化を目指したい。
	35	個人情報に十分注意している	9	0	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	8	・地域住民の理解を概ね得られるのは難しい状況にある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	5	・通信などの配布物にマニュアルを添付する等の方法を考える。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	3	・定期的な訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	・半年に一度の研修内にて実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	0	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	